































理事長 山崎吉朗

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、3月8日に JACTFL と上智大学国際言語情報研究所が共催しました第3回シンポジウム「外国語教育の未来を拓く:グローバル時代を生き抜くための外国語教育—いまこそ外国語教育の多様化を進めよう—」に多大なるご協力をいただき深く感謝申し上げます。特に高野教育監には、午前のシンポジウムにパネリストとしてご発表いただき誠にありがとうございました。おかげさまで、定員を超える219名の参加者を得て、充実した内容のシンポジウムを実施することができました。小中高校の教育現場の教員・管理職の方々をはじめ、大学関係者、地方自治体の教育行政者、メディア、企業の方々等、多様な参加者間で全日活発な討議を重ねることができました。午後の全体会には、5か国の大使館・文化交流機関の代表者にもご参加いただき、多言語教育の推進に対する積極的な支援の意も表明されました。参加者へのアンケート結果からも概ね好評をいただくことができました。これもひとえにご協力いただいたおかげと重ねて御礼申し上げます。

さて、今後の貴教育庁による多言語教育の推進策の遂行につきましては、私どもも大きな期待を抱いております。今回のシンポジウムでの討議を踏まえ、主催者として添付の提案書を作成いたしましたので、ご高覧いただけたら幸甚に存じます。

末筆ながら貴教育庁のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成27(2015)年3月25日

東京都教育庁

教育監 高野 敬三 殿

東京都長期ビジョンに関する提案書

都市戦略6・政策指針18における英語以外の外国語学習の環境整備

団 体：一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)

理事長：山崎 吉朗

## 提案書

平成 26 年 12 月 25 日付けで公開(最終更新)された「東京都長期ビジョン～『世界一の都市・東京』の実現を目指して」にある、都市戦略6「世界をリードするグローバル都市の実現」政策指針 18「東京、そして日本を支える人材の育成」の推進・実現に向けて、一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)は、以下のように考えます。

1. 「確かな学力と豊かな国際感覚を身につけ、強く生き抜く力を持った若者たちのグローバル社会での活躍を実現すべく、グローバル人材を育成する教育環境を整備する」ことを大いに歓迎し、それに賛同の意を表します。
2. 中でも特に、「英語以外の外国語学習を拡充するために、選択科目の実施校の拡大や異文化交流等を行う外国語部活動の設置を推進するなど、多様な言語を学べる環境を充実し、国際社会で活躍する資質を高めていく」ことが政策指針の目標として掲げられていることを高く評価し、その目標達成のためにできる限りの協力をしたいと考えます。
3. 若い世代への多言語教育の推進の意義については、諸説あるところですが、まずは 21 世紀のグローバル社会を生き抜く個々の学習者の資質、能力、人格形成のみならず、卒業後の人生の可能性を広げるものとして意義深いものがあります。また東京が今後多言語・多文化共生社会に発展していく礎として、その一員としての市民性の涵養にも意義が大きいと考えます。そして何よりも、「人の心に語りかけ、心を動かす真のコミュニケーションは、国際共通語としての英語ではなく、互いの母語によるものである」ということを忘れてはならないと思います。

以上のような観点にもとづき、JACTFL は、2020 年のオリンピック・パラリンピックの開催及び東京の持続的発展のための多言語教育の推進策の第一歩として、「東京都



多言語教育推進協議会(仮称)」(別紙参照)の設置をご提案申し上げます。

## 「東京都多言語教育推進協議会(仮称)」について

**1. 目的:** 英語以外の外国語学習を拡充するために、選択科目の実施校の拡大や異文化交流等を行う外国語部活動の設置を推進するなど、多様な言語を学べる環境を充実させるための具体的な方策を検討する。

### 2. 検討課題

#### ➤ 授業のあり方・運営に関わること

- ・教員(講師)の確保:派遣、研修、(中長期的には)養成、採用
- ・カリキュラム・シラバスの開発・支援
- ・教材の紹介・作成、ICT/遠隔教育などの活用

#### ➤ 教室外活動に関わること

- ・国際交流・異文化体験支援:蓄積されている知見・ノウハウの活用、人材の活用(留学生、在日外国人など)、プログラムデザイン
- ・各種ボランティア活動(語学や観光ボランティア等)の支援

#### ➤ 連携・ネットワーク構築に関わること

- ・学校間連携:小・中・高・大の縦の連携、横の連携(公・私立間、関東近県の学校との連携など)、連合体の結成、情報交流など
- ・各国大使館・文化交流機関などとの連携

\*東京韓国教育院、中国駐日大使館、東京ドイツ文化センター、セルバンテス文化センター東京、  
アンスティチュ・フランセ、カナダケベック州政府在日事務所からは、講師派遣や教師研修、教材作成・支援、ボランティア向け講座の実施等に協力する意向がすでに表明されています。

### 3. JACTFL の協力

JACTFL は平成 24 年に、あらゆる言語や教育段階の垣根を超えて、外国語教育関係者が連携・協力して、グローバル社会に対応する多言語教育を推進することを目的として設立されました。主に学校教育における多様な外国語教育の普及のための情報提供、シンポジウムの開催、研究会誌の発行などを行っています。  
(<http://www.jactfl.or.jp/>ご参照)

JACTFL は、その活動やネットワークを通して、上記の協議会の検討課題に対して、各種の提案、関係者の紹介、仲介および情報提供等を中心に、積極的、具体的に協力できることを確信しております。

以上

### 3.2 英語以外の各言語関係者への「東京都公立学校時間講師の登録制度」登録の呼びかけ

<お願い>

下記に詳細を書きますが、英語以外の各言語の関係者に「東京都公立学校時間講師の登録制度」を活用し、そこに登録するよう、呼びかけてほしいという旨の依頼を受けました。

時間講師の登録制度に関するHPです。

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/jinji/hijyoukin.htm>

ただ普通免許状の科目として、中・仏・独・韓・西・露・伊を入力できるような設定にまだなっておりませんので、「その他連絡事項等」の欄に、例えば「フランス語」と記入することになります。

#### <理由説明>

10月15日に、筑波大学教授の白山利信先生と関東国際高等学校副校長の黒澤眞爾先生と一緒に東京都教育庁指導部を訪ね、高橋祐介課長代理(国際教育事業担当)と田中万智主任(国際教育事業担当)と都立高校における英語以外の外国語教育の普及に関する協議をしました。

現在、東京都には186校の都立高校があり、そのうちの53校で英語以外の外国語教育が行われています。

言語は、中・仏・独・韓・西・露・伊の7つです。

2020年の東京五輪を控え、昨年、12月に東京都から「東京都長期ビジョン～「世界の都市・東京」の実現を目指して～」という東京の将来を見据えた政策目標が策定され、公表されました。その259頁の「3 国際社会の第一線で活躍するグローバルリーダーを育成」の中で、

「都立高校において、英語以外の外国語(中・仏・独・韓・西・露・伊)選択科目の実施拡大や異文化交流等を行う外国語部活動を推進するなど、多様な言語が学べる環境を充実し、国際社会で活躍する資質を高めていく。」

と明記され、国際教育の一環として、都教育長指導部指導企画が事業推進母体として、本年度から実務の担当者である高橋課長補佐、田中主任を中心に活動が始まっております。

都の政策の中に、こうした形で2外教育の推進が明記されたというのは、わたし達の知る限りありませんし、ある意味で、外国語教育政策の歴史に刻まれる出来事だと認識しております。英語のほかに、フランス語やロシア語(少し)ができると言われる舛添都知事のリーダーシップによるところが大きいかもしれません。

まだ初年度ですので、大きな動きとはなっておりませんが、これか地道に着実に英

語以外の外国語教育を拡大していく予定とのことです。来年度から、まだ英語以外の外国語教育を導入していない一部の都立高校で、新規に英語以外の外国語科目が開設される見込みです。そのための教員の確保ということで、各言語の関係者に「東京都公立学校時間講師の登録制度」を活用し、そこに登録するよう、呼びかけてほしいという旨の依頼を受けました。時間講師の登録制度に関するHPです。

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/jinji/hijyoukin.htm>

ただ、普通免許状の科目として、中・仏・独・韓・西・露・伊を入力できるような設定にまだなっておりませんので、「その他連絡事項等」の欄に、例えば「フランス語」と記入することになります。

いずれにしましても、朗報であることは間違いありませんので、お知り合いの「英語以外の外国語」の免許をお持ちの方々に、「東京都公立学校時間講師の登録」に関する情報を広く周知していただけますと幸いです。

#### 4 声をあげよう！

2007年3月に発行した、筆者の所属している一般財団法人日本私学教育研究所（当時は財団法人日本私学教育研究所）の調査資料集No243「中高における英語以外の外国語教育」の刊行のことばで、当時の本研究所所長故山岸駿介氏が次の様に書いています。

「英語以外の外国語に関心のない人だと、手にとってみることさえしないかもしれない。大学でさえ英語以外の外国語を履修する学生がどんどん減り、教える教員も減らされているとい

う時期に、中学、高校において、「英語以外の語学教育」をどうするか、何を教育すればいいのか・・・語学教育の重要な方向を見つけ、力をつけようという、ドン・キホーテのような報告書だからです。」

現在は、さらにその状況はひどくなり、英語以外の外国語はほとんど見向きもされない時代になったと言えるかもしれません。そんな中で、このような要望書を作成することとは、前所長のことばを借りれば、「ドン・キホーテのような」となるでしょう。しかし、それでも何もしなければ何も動きません。たとえ、ドン・キホーテであってもともかく道を切り開いていきたいと思っています。前所長も次のようなことばで刊行のことばを結んでいます。

「教養書でもあると同時に、本書に刺激されて、「英語以外の外国語」の教育を取り入れ、中学生、高校生の関心をその方向に向けさせてくれるかもしれない実践の書になることも期待できます。

この一冊の本が、私立学校だけでなく、全国の中学、高校に、いい影響を及ぼしてほしい。心からそう願っています。」

いつか実を結ぶと信じ、種まく人であり続けていきたいと考えています。日本における多言語教育の普及という大きな目的を共有できる様々な団体や志ある多くの個人の協力を期待したいと思います。

(JACTFL 理事長・一般財団法人日本私学教育研究所)